令和７年度

大阪大学
総合型選抜・学校推薦型選抜
解答例又は出題の意図

小論文（M）

令和７年度学校推薦型選抜

医学部医学科小論文　出題の意図

問題［Ａ］

物理的な現象を利活用した動物の臓器や行動についての英文を読み、関連する事柄に対して高校の物理などで学んだ基本的な法則から応用までを問いつつ、生体の現象の仕組みや意義を論理的に洞察し、説明させる能力を評価する。また、初めて見るグラフから実験の内容の理解と結果の推論を正しく導くことができるかの思考力も問う。

問題［Ｂ］

苦みの副作用を軽減させるための配合剤作成についての英文論文を読んだうえで、おそらく初見であろう化合物の生体内外での反応を推測させる設問構成である。高校化学で学習するイオン結合、塩と酸との反応、有機物の高分子化および異性体に関する知識をどの程度普遍的に応用できるかを問う設問と、新しい課題克服手段の考察を問う設問を混合させている。また、薬物の開発における課題に対する考察も出題して将来医師となるために必要な価値観についても評価する。これらの問いを通して多様な価値観を受け入れる柔軟性と知への探究心、発想力・創造性を評価する。

問題［Ｃ］

問題文(I)は免疫反応を抑制する T リンパ球が存在することを示した歴史的経緯が述べられた総説、問題文(II)はそのような機能を持つ制御性 T 細胞集団を同定した重要な論文である。さらに問題文（III）は、制御性 T 細胞を排除することにより、がん免疫を活性化することが可能であることを示した論文である。本出題では、まず、これらの重要な論文において報告されたシンプルかつ明瞭な実験結果を読み取り、それにより何が分かったかを記述する力を評価する。さらに、論文に記載されている内容から、自分の頭で新たな考察を行う能力を評価することを意図した。